

金足農業高校2年生が植林を体験

令和3年10月28日、金足農業高校2年生（生物資源科、環境土木科）24名が米代西部森林管理署杉沢森林事務所管内「2054林班に小班」において植林体験を行いました。この植林体験は、令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業の一環として、杉沢水力発電所見学、帝釈寺頭首工（取水）見学とセットで計画されたもので、水資源、水利用を考えることを目的としたものです。

高校生達は9時30分に友愛館（旧杉沢小中学校）に到着。はじめに、当署の平川森林整備官から「国有林野事業の植栽・保育作業」について説明を受け、植付けするコンテナ苗の特性や植栽後の保育内容、そして木材として利用されるまでの流れについて学習。その後、作業現地へ移動しました。

現地では、植付にあたっての注意事項について説明を受けた後、育成担当の工藤職員から苗木の扱い方や植え方についての説明と実演があり、その後一斉に作業にとりかかりました。作業箇所は、地拵は行われているものの点付けはしておらず、所によっては少し急な箇所も含まれるなど、請負事業体が植付けを行う時とほぼ同じ条件下での作業となりましたが、3人1組で協力しながらコンテナ苗を運び、植付間隔をポールで確認し1本1本丁寧に植付けていきました。また、時には当署職員や先生方から励



【開会式】



【平川森林整備官による植栽・保育の説明】



【植付実演に注目】



【植付開始】

まされ（気合いを入れられ）ながら1時間30分程で約400本の苗木を植栽しました。

心配された天気も当日は晴れ、高校生達には貴重な体験となったようです。



【コンテナ苗を植付】



【植付間隔をポールで確認】



【根元を踏み固め】



【植付された苗木】

【金足農業高校の感想文より抜粋】

- 山での作業で、足下は不安定だったのでとても疲れました。林業の辛さがわかりました。
- 木を植えるのはたいへんなので、木は大切なんだなと思いました。
- 辛い思いをして植えても木が生長するまでに50年くらいかかると聞いて、とても時間がかかることがわかりました。木とか植物の命を大切にしていきたいと思いました。
- 一見ただの森林に見えても、そのきれいな森林を維持するために裏でいろいろなことが行われているんだなとわかりました。
- 初めて植林をしてみるととても楽しかった。自分の行動がきっと将来につながっていると思うと、とても達成感があった。
- 今日は植林を体験できたので、次は木を伐るところが見られたらいいなと思っています。